

GP で培ったベースのフル活用、 誰もがリーダーシップを発揮できる環境で ISO14001認証取得

(一社)日本印刷産業連合会は、5月11日、東京・印刷会館において、「グリーンプリンティング認定工場によるISO14001認証取得事例発表会」を開催した。開催にあたり、日印産連の福島薫常務理事は、「GP認定工場からは、ISO14001による環境マネジメントシステムとの両立に課題を抱えている、またISO14001認証取得企業からは環境マネジメントシステムを有効に生かすきれないとの声をよくお聞きします。そこで、GP工場認定制度とISO14001を両立する有機的な仕組みの構築を目指し、GP認定工場によるISO14001認証取得のパイロット事業を実施しました」と述べ、今回のパイロット事業に参加した(株)木万屋商会の朝日健之代表取締役より、ISO14001：2015認証取得に向けた取り組みや課題などについて発表が行われた。

GP認定工場によるISO14001：2015認証取得に向けた取り組みについて

(株)木万屋商会 代表取締役 朝日健之氏

■ GP工場認定取得への取り組み

平成24年6月に当社市川工場で日本印刷産業連合会のGP工場認定を受けました。当初、環境に配慮した取り組みを、と考え、社内プロジェクトを発足し、日印産連GP認定事務局の指導を仰ぎながら、プロジェクトメンバーがGP認定評価指標兼チェックシートなど審査に必要な書類を作成し、認定を受けることができました。この段階ではプロジェクトのメンバーだけで実行していました。

■ ISO9001：2008認定

平成25年の夏過ぎに日本フォーム工連からISO9001の取得に向けたセミナー受講のお誘いを受けました。ハードルは高いですが、フォーム印刷で品質にこだわり続けてきた当社としては、チャレンジすることを決定しました。同年12月21日から平成26年3月29日までに7回のセミナ

ーを受け、ISO9001の審査を受けることにしました。第一段階審査は、セミナー途中の3月5日、第二段階の本審査は4月15日、16日に行われました。

このセミナーで最も特徴的なのは、4カ月という短い期間で審査を受けられるようになること。そのために内部監査員の養成研修がメニューに含まれていることが大きな点です。現時点で、当社の内部監査員有資格者は従業員の半分以上の26名です。

セミナーの中で内部監査員の研修を受け、資格を取得したものの、いざ本番になるとどうしても細かいところの指摘をしたりするのに、お互いに遠慮し、さしさわりのない設問に終始するなど、なかなか学習した通りにはできませんでした。途中、ISO事務局による社内の内部監査の復習の勉強会を実施したりして、ようやく本来の内部監査ができるようになってきました。社内の内部監査は、他部門の業務を知るきっかけにもなります。

自部門では気づかない点を内部監査員から指摘を受けることで自部門、他部門ともに業務改善につながります。また、以前から5Sプロジェクトに取り組んでいましたが、9001を取得するにあたり、6Sにレベルアップし、ISO委員会を中心に一層活発な活動を実践することになりました。平成26年4月22日に9001を取得できました。今では全社員が品質とは、を考え、自部門の業務改善を実施できるようになってきました。

■ ISO14001：2015認定取得

そうした中、GP工場認定を受けている当社に、今度は日印産連とフォーム工連の連名で、ISOと業界標準のGPとの世界初の融合なるかもしれない、ISO14001取得のパイロットモデルになってほしいというリクエストを受けました。

14001のセミナーは前回よりさらにハードな日程でした。平成28年1月23日に1回目のセミナーを実行、1月中にさらにもう1回、2月は3回、3月は2回、計7回のセミナーを実行しました。9001は品質ということで、社員も何かと自分の業務に通じるところがあり、理解するのに多くの時間は必要ありませんでした。しかし、14001の環境取り組みは、頭では理解しているものの法的な制約もあり、苦戦することがしばしばありました。しかし、そこはコンサルタントの先生の腕の見せどころで、身近な問題と分かりやすい対処方法でなんとか克服できました。

■ GP認定時の資料を活用

今回はモデルケースとしての実証実験の場でもあり、GP認定時に使用した資料の活用をアドバイスしていただきました。GPプロジェクトメンバーが作った資料があったので、活用できるものは活用して進めることができました。今回の取り組みは、今まではプロジェクトメンバーだけが取

り組んできた環境に対し、全社員が一同に取り組むきっかけとなりました。何が環境に良くて、何がダメなのか、その理由は、といった意識を、全員が同じレベルで理解することができました。

■ 内部監査員で他部門の気づきに寄与

私自身正直なところISO14001も9001もあまり興味がありません。それはISOを否定しているわけではなく、運用を含め、現場でどれだけ実践し、活用されているのか、中身が伴っていないと意味がないと考えるためです。そうでなければ、お金で看板を買ったことになるからです。当社は9001を取得してから2年が経ちますが、いまだに工場の庭や建物の外壁に看板を掲げていません。今回、皆様の助けを借りながら幸いにも認証取得には至りましたが、スタート地点に立っただけで、当たり前ですが、決して満足のいくレベルでもありません。私自身もセミナーに参加し、取り組んできましたが、自分のキックオフ宣言と環境理念以外は、受講者の中でおそらく一番よく分かっていないのではないのでしょうか。こんな感じなので当社では全員体制、誰もがリーダーシップを発揮できる環境を整えてあげることが認証取得に至った大きな要因ではないかと思います。

ISOは一言で言うとマネジメントシステム。経営のツールです。マネジメントの良好な手段の1つとして、内部監査員を増やすことが挙げられます。内部監査員の目、耳で他部門の気づきに寄与することができます。すると、改善、改良、知恵や頭を使うことで内部からの成長が望めます。2つ目は全員参加で実施することが挙げられます。経営トップは当然ですが、役員、社員全員がマネジメントシステムを理解し、実践することでPDCAが回り、新たな企業風土が創造されます。認証を取得して全社員が一丸となって品質、環境に取り組むことで安定した経営の運営ができ、経営理念である「会社は社員を守り、社員は会社を



発表の前にISO14001認定式が執り行われ、木万屋商会の朝日社長
および社員が登場、認定証が授与された

守る」が実現すると確信しました。

■ 1番の課題はGPと14001認証取得でコストも時間も倍

今回のことを通して、気づいた課題は3つ。1つ目は、GPで培ったベースを最大限、フル活用する必要があります。そのためにはGP資料の一部内容の見直しが求められます。また、ISOの様式も変更する必要があると考えます。

2つ目はコンサルタント料をもっと安くしていただきたい。コンサルタントを活用する価値は十分あります。しかし、費用負担が重い。1社だけでコンサルタントを依頼するのはそれなりの覚悟が必要だと思われま。仲間企業、複数の会社で依頼し、1社あたりの負担金額を抑える必要があります。

そして3つ目、1番の課題はGP認定と14001認証取得でダブルの費用がかかることです。また、別々の認定を取得すると時間もダブルでかかってしまいます。そのためにはGPと14001が完全に融合することが望ましいです。GPと

14001を同時に審査受けることで費用も時間も圧縮できます。願わくば、日印産連の中に印刷関連企業に特化したGPと14001が融合した独自の審査機関ができることを切に希望します。そうすればこの1番の課題がクリアされます。

聯木万屋商会会社概要

設立：昭和48年8月
事業内容：コンピューター用連続帳票 他
本社：東京都中央区日本橋町3-3-4
工場：千葉県市川市田尻3-3-7
従業員数：37名

認定取得

Pマーク認定：平成23年3月
GP工場認定：平成24年6月
ISO9001：2008認定：平成26年5月
ISO14001：2015認定：平成28年5月